

戦争を生きた

先輩たち

（中央大学出身の特攻隊員）

第一章

穴澤利夫 大尉

恋人への最後の手紙

第二章

及川真輔 大尉

慶良間の海へ

入場無料

2017年

12月 8日(金)~

12月14日(木)

9時~17時

開催場所 中央大学多摩キャンパス
中央図書館1Fホール

太平洋戦争末期の総力戦の中、多くの大学生が学徒兵として戦渦に身を投じた。陸軍特別攻撃隊員として戦死した方々の遺書、遺品等を保存、展示している知覧特攻平和会館にも、本来の夢を捨てて特攻出撃した学徒出身隊員の資料が数多く残されており、その中には中央大学出身の隊員の記録もあります。

当時の学徒兵の心情に触れていただき、戦争について、また平和についての考えを構築するための一助としていただくために、この度中央大学の御理解を得てキャンパス内での展示を企画しました。

穴澤 利夫 大尉 (1922年2月13日生まれ)

昭和20年4月12日 沖縄周辺洋上で戦死

享年23歳

出身地 福島県喜多方市

出身学校 中央大学

穴澤大尉は、飛行服のスカーフの内側に恋人のマフラーを巻いて出撃しました。学生時代に恋をし、たくさんの手紙のやり取りで愛を深め、結婚の約束をしましたが、二人の思いが結実することはありませんでした。



及川 眞輔 大尉 (1916年10月11日生まれ)

昭和20年6月6日 沖縄慶良間西方洋上で戦死

享年28歳

出身地 宮城県名取市

出身学校 中央大学

及川大尉は、特攻隊の小隊長として出撃するとき、自らの隊を「斗南隊」と名付けました。中央大学の学友たちと結成したサークル「斗南会」と母校への想いを最期まで心の支えにしたのでした。



知覧特攻平和会館 (鹿児島県南九州市)



昭和16年、大刀洗陸軍飛行学校知覧分教所が、鹿児島県知覧町(現南九州市)に開校しました。戦闘機のパイロットを目指す若者たちが操縦訓練を重ねていましたが、戦況の緊迫する中、昭和20年に本土最南端の特攻基地となりました。

知覧特攻平和会館では、戦争の記憶が風化することのないよう陸軍特別攻撃隊として戦死した1036人(うち知覧基地からの出撃は439人)の遺影、遺書、遺品を保存、展示しながら当時の証言等の調査を行っています。